



ボランティアで

10
2024

子どもたちとつくる
荻窪の未来



「募金」が「地域」を
よくするしくみ

令和6年度
杉並区社会福祉協議会
地域福祉活動費
助成金事業

【特集】OgiLOVE

ひえだ こうたろう
代表 檜枝 光太郎さん(写真前列右から2番目) 会員の皆さま

3面・・・実習生のライターチャレンジ
(協力:放課後等デイサービスみのり、
公益財団法人オイスカ)
4面・・・能登半島地震 被災地視察報告

この情報紙は、区内のボランティアの方々に、
宛名シール貼り、封入作業を行っていただき、発行しています。
いつもご協力ありがとうございます。

【特集企画】

地域づくりの最前線 ～そのチャレンジ！応援します～

OgiLOVEは、杉並区教育委員会主催の講座である、『すぎなみ大人塾・荻窪コース(2020～2022年実施)』の受講生が中心となり2023年1月に設立。「自らが楽しむと、荻窪が盛り上がる!」「生き甲斐を原動力に、皆が心地よい社会をつくる」を合言葉に、会員が楽しみながら地域活動をしています。

団体の活動内容

OgiLOVEは「荻窪で地域活動の第一歩を踏み出したい」という想いで、すぎなみ大人塾という講座を受講したメンバーを中心に18名で立ち上げました。荻窪(杉並)を愛する仲間が集まることや、居場所づくりを目指した活動をしています。発足から約1年半を経過した現在は、49名まで会員が増えました。会員のほとんどは60代以上ですが、3名の学生会員も活躍しています。

私たちは、杉並社協の助成金事業「フリーマーケットこども未来市」や、西田秋祭りなどの地域で行う伝統行事の支援、ホームページの情報発信などを通し、地域活性化に取り組んでいます。また、子どもが健全に育つ地域になることを目指して、科学あそびや移動だがし屋を実施しています。OgiLOVEメンバー間の親睦や学びを深めるため、イベントや研修を内部で行う機会もあります。

子どもたちがつくるフリーマーケット

今年の5月18日(土)に、松溪橋公園とその近隣にて、「フリーマーケットこども未来市」を開催しました。このフリーマーケットは、近隣の荻窪児童館に通う小学校高学年から中学生までの子どもたちが中心となって計画を立て、実施することで、子どもたちの自己肯定感を育むとともに、多世代交流を図ることを目的としました。初めての企画で、計画時や準備段階では、子どもたちを巻き込むことがあまりできなかったという反省があります。しかし、当日は子どもたちが科学あそびやゲームコーナーの運営をし、たくさんの来場者に楽しんでいただきました。子どもたちが子どもならではの発想でコーナーを盛り上げたり、中心となってコーナーの運営をし、それをたくさんの方々に喜んでいただけたことで、十分に目的が達成できたと思います。また、OgiLOVEとしても、地域の様々な方と顔が見える関わりが持てたことで、居場所づくりの大きな一歩を踏み出せたと思います。



▲賑わった「フリーマーケットこども未来市」

杉並ボランティアセンターでは、「地域福祉活動費助成金」を通して、地域で活動する団体を応援しています。

今回はその中の一つ、チャレンジ応援助成団体※
OgiLOVEの代表・檜枝光太郎さんにお話を伺いました。

※チャレンジ応援助成とは…新規の活動を応援するための助成金。地域の方々からの善意で集まった歳末たすけあい運動募金が原資になっています。

地域活動は「楽しい!」

私(檜枝さん)が地域活動を始めたきっかけは、妻の一言です。もともとは、大学で学生たちに物理を教えていました。定年を過ぎ、地域の子もたちと関わりたいという想いは持ちながらも、何もせずに過ごしていたところ、たまたますぎなみ大人塾の講座の募集案内を見つけた妻が、「何かやる」活動のきっかけを私に与えてくれました。

私はこの講座を受講したことで、地域活動と出会い、現在私が活動をしている「科学あそび」を長年子どもたちに教えてきた言わば「師匠」と出会うことができました。この時が2015年、私は72歳となっていました。そこから約10年、地域や子どもと関わり続け、82歳となった今では地域活動は、私の生き甲斐となりました。

地域との関わりを持たずに定年を迎えた世代であった私は、まったく新しい場所である地域に飛び込むことはハードルが高いと感じていました。しかし今、私は地域活動がとても楽しいです。ボランティアや地域活動は、年齢も性別も経歴も始めるタイミングも一切関係なく、フラットなものです。もし、「何かしたい」という想いを少しでもお持ちでしたら、私のように講座の参加も一歩です。踏み出すと楽しさがきつとわかんと思います。

子どもたちが運営した
ゲームコーナー▶

今後について

OgiLOVEは、荻窪の居場所づくりを目指す団体ですが、会話を楽しむサロンのような活動がメインではありません。会員自身が活動を楽しみ、より良い地域づくりに向け自由に考えたことを実現できる団体になれたらと思っています。そのために、まずはOgiLOVEが地域や他団体などつながり、会員が自らの自由な発想を実現できるよう、OgiLOVEを基盤として使い、一緒に取り組んでいきたいです。

「フリーマーケットこども未来市」では、たくさんの方々の地域の子もたちとつながることができました。今後も、OgiLOVE主催のイベントだけでなく、地域で行われる他のイベントにも積極的に関わることによって地域の方々とながら、子どもたちが成長できるような場を設け、子どもたちと一緒により良い地域づくりを目指していきます。OgiLOVEの活動にご興味を持っていただいた方がいらっしやいましたら、一緒に活動できると嬉しいです。



OgiLOVE

HP : <https://ogilove.com/>





特別企画／

実習生のライターチャレンジ

8月5日(月)～9月10日(火)の期間、社会福祉士資格の取得に向けて、2名の大学生が杉並社協で実習しました。期間中、2名はボラン・での取材にチャレンジしましたので、大学生のフレッシュな記事をぜひご覧ください！

放課後等デイサービス **みのり**

杉並ボランティアセンターでの実習プログラムで「放課後等デイサービスみのり」に訪問し、お話を伺いました！放課後等デイサービスとは、障害がある子どもたちの放課後の居場所です。みのりは、障害がある子どもたちが、自由でのびのび過ごせる空間で友だちと共に放課後を過ごし、心の豊かさを育むことを目的としています。



<代表 中田さんにインタビュー>

立ち上げたきっかけは？

障害者支援や、相談支援専門員(※1)を長くやっている中で、障害のあるお子さんの保護者から、送迎サービスや放課後に預かってもらえる先を求める声が多く寄せられました。また、すでにあった他の放課後等デイサービスに通えない待機児童も多く、当法人(※2)でも立ち上げようと思いました。



地域の方へ

みのりは、青梅街道沿いに施設があります。交通量が多く、外に遊びに行く際は安全確保のために、人手が必要となります。現在は、近隣に住む大学生等のボランティアが協力してくれていますが、少しでも「力になりたい」と思っていただけの方がいたら、ボランティアとしてぜひ協力をお願いします。

みのりに通う子どもたちが、地域の中で安全に、人との関わりによって心の豊かさを育てていくために、まずは障害のある子どもたちについて地域の方に正しく知っていただきたいです。そのために、子どもたちのことを発信したり、社会参加の機会を増やしていきたいと考えています。子どもたちの成長を私たちと共に見守っていただければと思います。

※1：障害者の相談・支援を行い、障害者及びその家族と福祉施設をつなぐ、障害者が適切な支援を受けられるようサポートを担う職種
※2：一般社団法人 みんなのいえ

(取材：日本社会事業大学 実習生S)

～公益財団法人 **オイスカ** に行ってきました！～

杉並ボランティアセンターの実習プログラムで、公益財団法人オイスカ(以下「オイスカ」)に行ってきました。

オイスカは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して、41の国と地域で活動を展開する国際NGOです。



オイスカでは、ボランティアの受け入れを行っています。ボランティアの活動内容は、活動者の得意なことを活かす内容もあり、翻訳やベルマークの仕分け、PCでの写真整理、SNSの発信など多岐に渡ります。取材当日は、近隣にお住まいの女性がベルマークの仕分けを、大学生インターンの男性がSNSに発信する記事を作成されていました。ベルマークの仕分けは気軽に活動しやすいボランティアの一つで、障害のある方も活動されています。

仕分けされたベルマークは1点1円となって、ベルマーク預金として貯められます。オイスカでは、この預金を使用して、発展途上の環境保全のために現地の子どもたちが苗木を植える取組や、環境教育の教材などさまざまな形で活用しています。



▲ベルマークの仕分けの様子

▼オイスカのSNSに投稿する記事を作成する大学生ボランティア



～担当の藤井さんから読者の皆さんへ～

環境問題は発展途上国だけの問題でも未来の問題でもありません。環境問題を他人事とせず、自分事として捉えて、節電や節水、自然を大事にしたりと、小さなことからできることを取り組んでほしいです。

(取材：法政大学 実習生U)

必見

MADE IN 杉並

区内の福祉施設や団体で作っているオススメの製品・作品を紹介します。お気軽にお問合せください！



それぞれの持っている力を発揮できるような手芸作品やアレンジフラワーなどを作り施設内や区役所などで販売しています。



作業所にしおぎ館 (西荻北4-31-12)

TEL : 03-3397-3154

<https://www14.big.or.jp/~fnkan/main.html>

能登半島地震 被災地視察報告

能登半島地震の被災地となった富山県と石川県内の社会福祉協議会に訪問し、復興状況や支援の取組みについてお話を伺いました。

期間：9月18日（水）
～9月20日（金）

板橋区、豊島区、
中野区、練馬区、
杉並区の社協職員7名
で訪問しました。



2024.04.24.撮影



2024.09.20.撮影

▲およそ5万平方メートルが焼失した朝市通りは、4月時点では震災と火災が起きた状況のままになっていましたが、9月20日時点ではがれきが撤去されていました。（写真はほぼ同じ地点からの撮影）

訪問直後の21日に、能登半島を襲った記録的大雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

以下は、21日以前の被災地の状況です。

富山県氷見市では震度5強の地震で断水や建物等に被害があり、氷見市社会福祉協議会では災害ボランティアセンターが開設されました。同市では石塀や灯籠が崩れる被害が多く、重機を扱うような専門的なボランティアが活躍されたそうです。家の片づけやがれきの撤去は家屋被害の程度によってボランティアが対応できるかの判断が難しいとお話も伺いました。自然災害では土木、建築に関わる専門ボランティアの必要性が高く、人材を確保していくことが課題とのことです。

石川県穴水市と輪島市では建物の倒壊、生活インフラ全般に甚大な被害を受けました。発災後に比べ被災者の方々も仮設住宅に入居が進む等、少しずつ生活が落ち着きはじめています。現在は社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターと被災地支援を行っているNPO・NGOが連携を図りながら、被災者に寄り添い、困りごとの把握に努めています。

仮設住宅では、今まであった地域とのつながりが途切れてしまうため、孤立につながることも多いようです。そこで社協職員は、戸別の聞き取りや、ちょっとした会話の中から悩みや不安などをキャッチし、支援につなげていると伺いました。孤立を防ぐ取組みの一つとして住民同士の交流の場（サロン活動等）を活発に実施しています。

▶ サロン活動としていた



今回の訪問を通して、「地域とのつながりの強化」、「地域住民の困りごとを把握する取組みの実施」、「適切なボランティアコーディネート」の重要性を再認識しました。災害時だけでなく、平時から地域住民の困りごとの把握などに意識して取り組み、地域の皆さんとつながりを持っていきたいと思えます。

杉並のボランティア情報紙「ボラン・て」

発行：社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会
杉並ボランティアセンター

〒167-0032 杉並区天沼3-19-16 ウェルファーム杉並4階
TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063
メール: info@borasen.jp ホームページ: http://borasen.jp

うえるくん
杉並社協のイメージキャラクター

開所時間：火～土曜日
8:30～17:00

* 祝日・年末年始はお休みです。



情報紙「ボラン・て」は、次の区内各所にも置いてありますのでご利用ください。区役所・区民集会所・区民事務所・地域区民センター・一部のゆうゆう館・図書館・駅スタンド（区内 JR、地下鉄丸の内線など）・他